

2025年度 商学会学生懸賞論文執筆要項

1. 論文には、節見出しの目次を付ける。
2. 節や項をもうけ、それぞれに小見出しをつけるなど、以下の〔論文の構成例〕を参考にわかりやすく構成すること。

〔論文の構成例〕

1. はじめに
2. □□□□□□
 - 2.1. □□□□□□
 - 2.2. □□□□□□
 - 2.2.1. □□□□□□
3. □□□□□□
 - 3.1. □□□□□□
 - 3.1.1. □□□□□□
 - 3.2. □□□□□□
4. おわりに

3. 図および表は、図1、図2、表1、表2、……と表し、その注と出所は以下のようにする。

表1□××××

		1	

注 1.

2.

出所：

4. 説明注は、本文の該当箇所を上付添字で通し番号を付し、脚注として表記するか、あるいは後注として論文末の参考文献リストの前にまとめて配置する。
5. 文献注の表記について
文献注は、下記の表記例にしたがい文中に記載する。参考文献は、論文末に参考文献リストとして一括表示する。

The diagram illustrates various citation formats with callouts:

- [文献注の表記例]**: Main title of the section.
- 著者が1人の場合**: Points to the example "(石井, 2011: 377)。".
- 引用頁**: Points to the page number "377" in the previous example.
- 複数文献の参照**: Points to the example "(Keller, 1984; Adama and Beehr, 1998; 高橋・渡辺, 1995)。".
- 著者が3人以上の場合**: Points to the example "(Dacin et al., 2002: 48-50)。".
- A detailed box explains the page numbering for multiple authors: "104 は原著の引用ページを指し、132 は、訳本のページ数を指す。訳本のみを引用した場合、(ケインズ, 1941: 訳 132) とすること。". This points to the example "(Keynes, 1936: 104, 1941: 訳 132)。".
- (福沢他, 2012: 77)。**: Example for multiple authors where the first name is followed by "他" (et al.).

〔例2〕 編書所収の論文

田崎則義・大岡聡（1999）「消費社会の展開と百貨店」山本武利・西沢保編『百貨店の文化史』世界思想社、14-61 頁。

〔例3〕 雑誌所収の論文

南亮進・牧野文夫（1988）「農村機業における力織機化の要因：1910－20 年」『経済研究』（一橋大学）第 39 巻第 4 号、308-315 頁。

外国語文献（著書名、雑誌名はイタリックス）

〔例1〕 著 書（邦訳書があるときは、原著名に続けて表示する。）

Keynes, John M. (1936). *The General Theory of Employment, Interest and Money*, London: Macmillan（塩谷九十九訳『雇用・利子および貨幣の一般理論』有斐閣、1941年）

*氏名は姓(Family name), 名(First name) Middle nameのイニシャル. の順

例: Doshisha, Taro D. (2000) …

〔例2〕 編書所収の論文

Pinch, Trevor J. and Wiebe E. Bijker. (1987). “The Social Construction of Facts and Artifacts: Or How the Sociology of Science and the Sociology of Technology Might Benefit Each Other.” Bijker, Wiebe E., Thomas P. Hughes and Trevor Pinch (eds.). *The Social Construction of Technological Systems*, MA: The MIT Press, pp.17-50.

*氏名は、2人の場合、1人目が姓(Family name), 名(First name) Middle nameのイニシャル. の順、2人目は名(First name) Middle nameのイニシャル. 姓(Family name)の順

例: Doshisha, Taro D. and Jiro K. Kyoto (2000) …

〔例3〕 雑誌所収の論文

Robinson, Joan. (1953). “The Production Function and the Theory of Capital.” *Review of Economic Studies*, 21(2), pp.81-106.

電子化された資料

（ア）インターネット上の資料

同志社大学（<http://www.doshisha.ac.jp/>）2016年11月29日閲覧。

（イ）CD-ROMに入ったデータベースや資料

〔例1〕 経済企画庁編『国民経済計算年報 2000』（CD-ROM）、大蔵省印刷局、2000 年。

〔例2〕 IMF, *International Financial Statistics*, CD-ROM, 2006.

聞き取り調査

必要に応じて、聞き取り相手の氏名、所属・肩書（公表を希望しない場合、A 氏・B 社などでも可）、聞き取り調査を行った場所、日付、聞き取り調査時刻（時間）などの情報を下記の例にしたがい一覧表にまとめて記載する。なお、同時に複数人へ聞き取り調査を行った場合も同様のこととする。

〔表記例〕

氏名	肩書	インタビュー場所	日時	時間
同志社太郎	株式会社同志社 （専務取締役）	株式会社同志社 本社 1 階応接室	2016 年 9 月 6 日（火）	13:00-14:30 （1.5 時間）
京田辺花子	財団法人同志社 （営業主任）	ドトールコーヒーショップ 四条烏丸店	2016 年 10 月 1 日（土）	15:00-16:00 （1.0 時間）